

「頭」も「心」も活性化する授業を通して 受験に必要な「成長力」を育む

新宿と渋谷に教室を持つグノーブルは、中1〜高3までの生徒が通う大学進学塾。2006年に開設された新しい塾ですが、第一期生がチャレンジした2007年度入試では、東大をはじめ難関大学に数多くの合格者を出し注目されています。卒業生は塾を評して、「授業が楽しかった」と言います。生徒たちをひきつける魅力はどこにあるのか。高い実績をもたらした教育方法とはどのようなものなのか。中高6年間における家庭と塾の役割など子育て論もまじえ、代表の中山伸幸先生に話をうかがいました。

自立準備期の中高6年間 保護者はどうかかわるべきか

2007年春に第一期生187名が卒業されましたが、東大38名をはじめ国立大の合格者が74名、医学部の合格者が44名など、初年度ながら、すばらしい実績ですね。

中山 生徒たちのがんばりと、教師が生徒一人ひとりをしっかり見つめ、引っ張っていったくれたおかげだと思っています。

受験が終わってしばらくしたころ、第一期生の保護者の方を対象に、受験へのかかり方についてアンケートをとりました(図1)。グラフを見ておわかりのように、大学受験においては、勉強面でも学校選びでも本人が主体で、保護者は一歩引いた立場からお子さまを見守っているよう

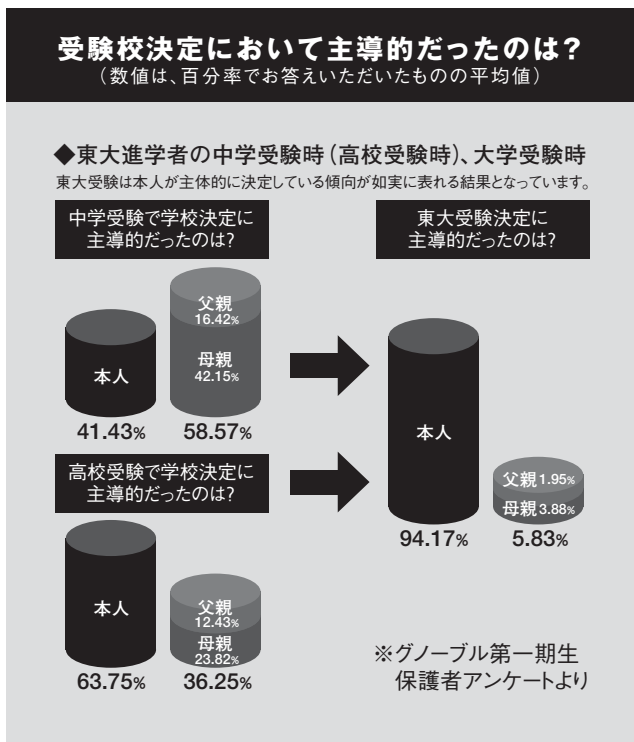
です。

中学・高校期は「自我の確立・自立の準備期」です。この時期に周りの大人たちが、子どもとどうかかわるかには非常に大事です。そして、この大切な時期に保護者が子どもの成長を阻んでしまうと、問題あるパターンが二つあります。

一つは「即刻大人扱い型」です。「もう中学生なんだから自分でやりなさい」と、いきなり大人扱いして、放任してしまう。中学受験は保護者が積極的にかわっていったのに、いきなり突き放されたのでは、子どもは戸惑ってしまいます。

学校でもそういう学校があります。自分でやるのが当たり前と、やれていない生徒がいても、ほとんど声も

●図1. 受験における保護者のかかわり方



かけてもらえないこともあるようです。「自主性を重んずる」という主義のもとで、中学で身につけなくてはならない基礎を取りこぼしていく生徒がいます。本人も保護者も、難関校に入ったというプライドがありま

ていくなかで、取り残されていきま

自ら好奇心を持って学び 成長できる雰囲気づくりを

家庭で保護者はどのようににかかわったらいのでしょうか。

中山 家庭の役割は何かというと、まず子どもにとっての「安全基地」であることです。保護者を批判したり、うるさかったりする年齢ですが、それでも、保護者が自分を見ていてくれるという、安定した環境があるほうが、受験勉強に安心して取り組めますし、実力も伸ばせます。

家庭に知的な雰囲気があることも大切で、よくお子さんと知的な

グノーブルが提唱する 「塾の役割」とは

長を伸ばすうえで大切です。



中山伸幸先生

中山 私たちのような塾に求められている役割も、そこにあると考えます。生徒たちが自ら好奇心を持って取り組み、「こういうことか」と納得して蓄積した知識やものの考え方は、大学受験でも力を発揮し、さらに、入学後も高度な知の礎になって開花していくでしょう。私たちの塾ではそういう勉強をめざしています。

霧開き作りということでは、まず、「宿題をやってくること」「授業に真剣に取り組むこと」が当たり前だとい

授業中でも個別添削し 一人ひとりを把握

個別指導でないにもかかわらず、授業中でも一人ひとりに添削指導を行

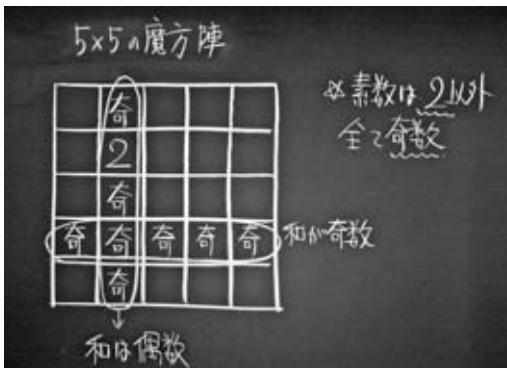
中山 はい。一人ひとりをしっかり見るため、私たちは毎回必ず、生徒たちの答案やノートに目を通して添削をしています。〇×をつけるのではなく、コメントを書いていくのです。授業中でもどんどん個別添削しますから、生徒はどこをどう間違えたか、どんなことに注意すればよいか、その場ですぐわかります。

第一期生が寄せた「合格者の声」にも、個別添削への感謝がたくさん



グノーブル独自開発の英語音声トレーニング(ワークアウト)。6学年すべてに授業ごとの素材が用意されており、楽しく新鮮に取り組めます。「聴き込み(Listening)」「口まね(Retention/Shadowing)」「音読(Reading aloud)」などの合理的なワークアウトを通して、グノーブル生は本格的な英語力を築いています。

●図2



は、生徒たちに自分の頭を使って考えさせること。それと、夢中になったり、悩んだり、なるほど！と、心も動く授業をすることです。

たとえば中1の数学では、生徒たちといっしょに魔方陣(縦、横、対角線上の並び数字の和が、どれも等しくなるように作ったもの)作りを取り組みます。素数を小さい順に25個選び、縦5マス、横5マスの魔方陣ができるだろうか、という課題です。生徒たちはさっそく「2、3、5、7…」と素数を小さい順に書きはじめ、あれこれ悩み出します。ここでは悩むことを十分に楽しんでもらいます(笑)。「悩んで楽しむ」と言うと、矛盾しているようですが、

あれこれ可能性を探って頭を使うのはじつに楽しいことなのです。

こうやって、生徒たちにしつかり悩んでもらうてから、こんなヒントを出します。「特別な素数がありますよね」って。気がついた生徒は「2だ!」「先生、答えがわかった!」と眼を輝かせます。「どうしてそれでわかるの?」と何人かの眼はキョロキョロします。

ここで、黒板を使って種明かします(図2)。この段階になれば、全員が「そういうことか」と頭のもやもやがすっきりして納得します。素数の中で2だけは偶数なのです。列の中に2が含まれている場合は列の和が偶数、2が含まれていない列の和は奇数になりますから、じつは魔方陣は成立しないのです。

この問題のポイントは整数の「偶奇性」を意識してもらうことです。この先、整数の「偶奇性」に着目する問題はさまざまな形で登場しますが、頭といっしょに心も使った生徒の場合、無理なくその思考回路が形成されていくのです。夢中になって考え、「あつ」と気がつく感動や、「もやもや」に悩んで「ああ、すっきり」という心の動きは、勉強には本当に大切です。

なるほど。全員が積極的に授業に参加し夢中になる、こうした勉強を続けていくことで、大学受験のと

じまが、楽しいことはあつという間に過ぎます。こうした体感時間をユング心理学ではカイロス時間といって、物理的に計れるクロノス時間とは区別するそうです。本当に物事に熱中したら、彼らのなかに流れているのは、生き生きとしたカイロス時間なのです。

いたずらにむずかしい課題で生徒を圧倒したり、作業としか言えない宿題をたくさん課したりして、「忙し」くさせることで「勉強をやっている」という間違った安心感を与えたりすることは絶対にやめてはいけません。私たちは肝に銘じています。

授業方針についてもお聞かせください。

中山 私たちは授業で、うわべのテクニックを身に付けさせようとして

き力を発揮できるだけでなく、その先の人生でも大きな力になるといふことですね。

中山 勉強に対する姿勢が能動的になりますから、中学、高校での成績も良くなります。

「合格者の声」では、多くの卒業生が「先生たちの熱意に応えるためにも、がんばった」と書いています。メソッドのすばらしさもさることながら、先生方の熱意はグノーブルの大きな財産ですね。

中山 教師たちの熱意には、私も頭が下がります。グノーブルの教師陣が、生徒指導の具体的方法論を共有する、情熱ある教師の集まりであることを誇りに感じています。そんな教師たちに会いに、ぜひ、皆さんにはグノーブルの教室に来ていただきたいと思っています。

先生のお話で、グノーブルの教育理念がよくわかりました。教室数も初年度に比べて大幅に増え、自習室も常設されるようになったとうかがっています。環境整備が進むなか、今後の発展が大いに期待されます。本日はどうもありがとうございました。

■新中1 スタートダッシュ講座 新宿本部

対象：中高一貫校の新中1生(現小6生)
 科目：英語・数学(各2時間×4日間)
 日程：M日程(数学のみ) 2/23(土)~26(火)
 E日程(英語のみ) 3/1(土)~4(火)
 A日程(英数選択) 3/15(土)~18(火)
 各日程とも 17:00~19:00
 受講料：1科目 16,000円(税込)※3月下旬にも開講

プロフィール

GNOBLE ~知の力を活かせる人に~

所在地
 <新宿本部>
 〒151-0053 渋谷区代々木2-7-5中島第2ビル5F
 TEL: 03-5371-5487 FAX: 03-5371-5488
 受付時間: 月~金曜日15:30~21:00
 土曜日14:00~21:00/日曜日休み
 http://www.gnable.co.jp/ E-mail: info@gnoble.co.jp
 <渋谷教室>
 〒150-0043 渋谷区道玄坂1-13-6斉藤ビル3F

〈新宿本部・2号館〉

JR「新宿」駅サザンテラス口徒歩2分(南口徒歩3分)
 京王新線・都営新宿線・都営大江戸線 出口2 徒歩1分
 JR「代々木」駅北口 徒歩5分

〈渋谷教室〉

マークシティ4Fレストラン・アベニューサンクスわき出口 徒歩1分
 JR「渋谷」駅西口 徒歩4分



効果の大きさがうかがえます。

中山 私たちにしてみれば、個別添削はとても手間のかかることです。でも、こんなに楽しいことはありません。添削をしながら一人ひとりを見ていると、あるとき急に成長したなと思うときがあります。それが私たちに何よりの喜びなのです。

また添削することで、次の授業に生かすことができます。グノーブルの教材は教師の手作りですから、添削によって理解度を判断し、見えてくる課題を把握して、次回使用するテキストに反映させられるのです。とくにテキストと並行して使用するプリント類については毎回作成しますから、クラスの理解度に対応させ、より意欲の持てるものや、学習項目の定着を図るものを準備できます。

英語では教材として、インターネットによる「音声配信」もなされていますね。

物理的時間では測れないグノーブルの授業

成長の芽を摘まないよう、勉強のおもしろさがわかるように導く。それを中高6年間でやっていくことが大事なのですね。受験して中学に入ったのだから、しばらくのんびりさせたいと保護者は考えがちですが、そうではないのですね。

中山 もし受験勉強に疲れたのなら、それは、やり方が間違っていたのです。勉強を楽しんでいた生徒は、中学に入ればさらに意欲が湧きます。グノーブルの授業は基本的に2時間ですが、生徒たちはよく「授業があつという間に過ぎる」と言います。つまり授業なら10分でも長く感



じますが、楽しいことはあつという間に過ぎます。こうした体感時間をユング心理学ではカイロス時間といって、物理的に計れるクロノス時間とは区別するそうです。本当に物事に熱中したら、彼らのなかに流れているのは、生き生きとしたカイロス時間なのです。

いたずらにむずかしい課題で生徒を圧倒したり、作業としか言えない宿題をたくさん課したりして、「忙し」くさせることで「勉強をやっている」という間違った安心感を与えたりすることは絶対にやめてはいけません。私たちは肝に銘じています。

授業方針についてもお聞かせください。

中山 私たちは授業で、うわべのテクニックを身に付けさせようとして

「頭」といっしょに「心」も使うと勉強が得意になる

中山 私たちが常に心がけているの

いるのでも、丸暗記をさせようとしているのでもありません。たとえば英単語を例にとると、植物の緑などを表す green という単語の「r」は、grass(草)と共通で「成長」が原義です。grass(草)も同じですね。一方、grass(草)の「r」は「輝き」を表します。bright(きらきら輝く)、bright(きらきら光る)といった単語を見てもわかりますね。このようにつながりを考えれば興味もわきますし、覚えやすくなります。また未知の単語が出てきても、意味を類推できます。

国語では、一貫校生の中学期に、受験に直結しないこともあって重視します。受験では、課題文を正確に情報処理できるようにする「処理の国語」が大切ですが、中学生の授業では文学を鑑賞するための「情緒の国語」に親しむのです。このほうが真の言語能力アップにもつながりやすし、能動的に学ぶことを楽しむ姿勢を育むのです。芥川龍之介の「戯作三昧」に代表されるように、文学が生まれる瞬間に作家の感動があります。それを味わわずして、どうして国語を楽しむことができるでしょう。